

⑧ 千代川における百年の計 ～河道付け替えによる市街地の治水安全度の向上～

森本 健一

1 はじめに

千代川は天神川・日野川と並ぶ鳥取県の三大河川の一つで、その源は八頭郡智頭町の沖ノ山(1,319m)に発している。北流しながら、佐治川、八東川、砂見川、新袋川、野坂川などの支川を合わせ、鳥取平野の中央を貫流して日本海に注ぐ。(図-1)

流域面積は1,190km²で、鳥取市、八頭郡の1市3町に広がり、県の総面積の約3分の1を占める。流域人口は約20万人に及び、県の東部地域において社会・経済・文化の基盤を成している。

なお、中国地方を山陰側と山陽側に分ける脊梁山脈は北寄りに連なっているため、流路は延長52kmと短く急勾配の河川といえる。



図-1 千代川の流域図

2 氾濫の歴史

千代川では洪水による氾濫が度々発生した。近代以降、氾濫区域内への人口や資産の集中、流域開発による出水の変化、生活様式の変化などにより、被害の発生状況は多様化してきた。(表-1)

大正7年(1918)には市街地で家屋1万余戸の甚大な浸水が発生したことから、河川改修の要望が上がり、大きく曲がっていた下流区間を直線化する計画を立てた。

表-1 主な洪水による被害の状況

	最大流量 (m ³ /秒)	浸水家屋 (戸)	冠水面積 (ha)
大正元年9月	3,070	9,876	8,693
大正7年9月	3,400	11,831	5,104
昭和9年9月	3,230	7,529	3,092
昭和36年9月	3,000	1,404	142
昭和54年10月	4,270	2,925	3,915

3 河道付け替え事業

大正15年(1926)、県内随一の市街地を守るため、長さ3km幅300mの人工河川の建設に着手した。新しい河道の区域に仮設軌道を敷き、大規模な掘削工事用のラダーエクスキャベーター(連続掘削積込機)で掘削しトラック貨車で運搬するなど大事業に挑んだ。

元号は変わり昭和5年(1930)、4年ほどの歳月で新河道が完成し、通水式が盛大に行われた。(図-2、図-3)



図-2 改修前後の地図 (左:大正末期、右:現在)

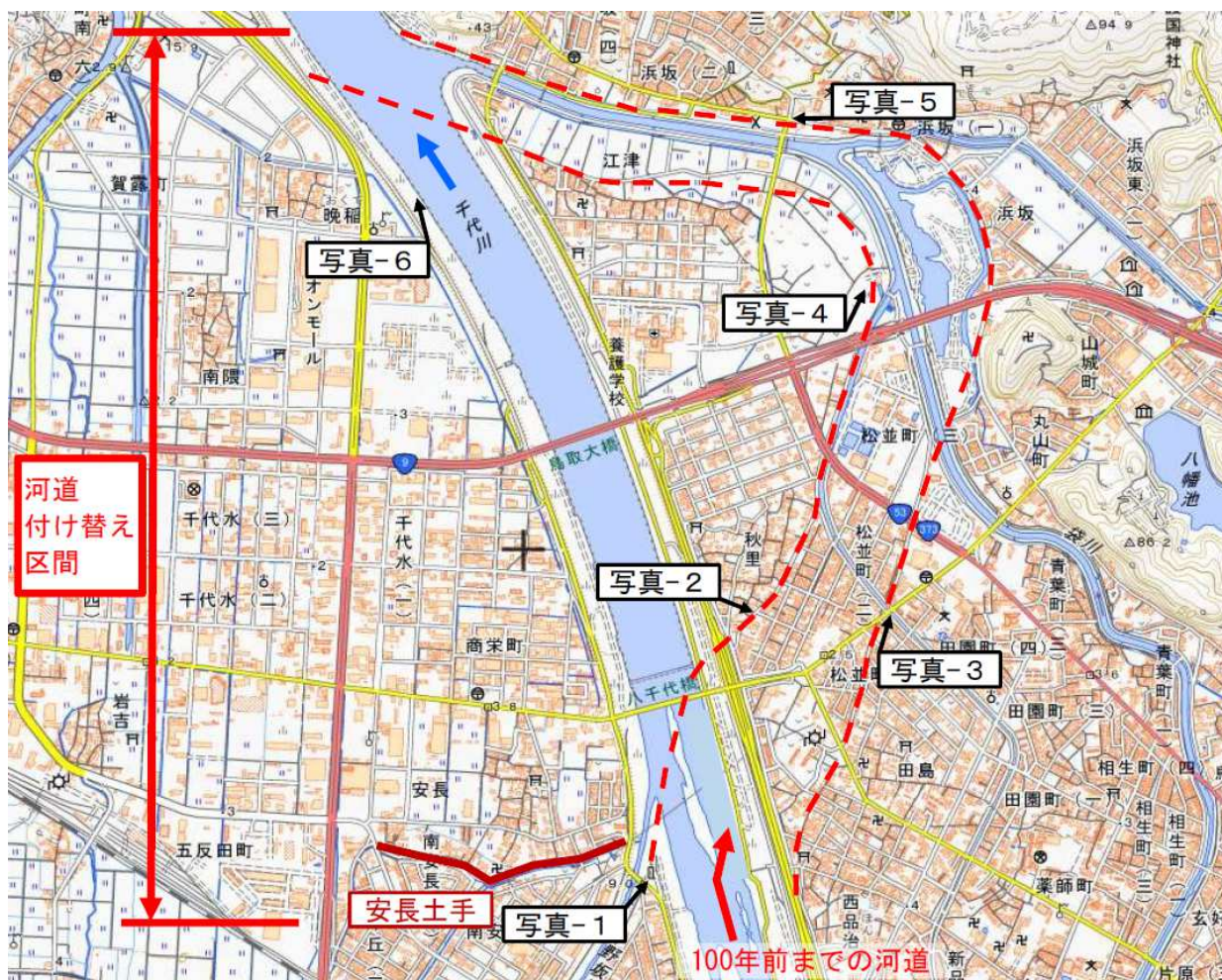


図-3 新旧の河道 (現在の地形図に、旧河道を赤色破線で記載したもの)

その後、図-3のとおり旧河道の大半が開発されていく中で、昭和49年(1974)、付け替え区間の上流地点に記念碑が建立された。(写真-1) 碑文の要旨を次のとおり抜粋する。

「鳥取市勢はその両岸に着実に発展して、荒狂った千代川は昔語りとなろうとしているが、ここに至るまでの先覚者の努力と沿岸住民、とくに鳥取市民の団結による強力な運動の成果が、千代川の流れが絶えないごとく、後々までもたえつづけられることを念願して、ここに改修記念碑を建立する。」

改修から90年余り、千代川は数多の洪水を繰り返し、昭和54年に戦後最大、平成30年7月豪雨では同じく第2位の最大流量3,700m³/秒を記録したが、氾濫による浸水被害は発生しなかった。

そして、旧河道の一带を歩くと、昔の面影が偲ばれる。(写真-2～写真-6)

写真-2の付近は、市道が緩やかに曲がり、写真のとおり平坦な住宅地に3mの高低差が現れる。この不思議な地形は断層ではなく、手前が旧左岸堤防で高く、奥が旧河道で低くなっているのである。

写真-3の左奥に延びる市道が旧右岸堤防である。改修と併せて国道(平成前期に県道化)が整備され八千代橋も架けられており、市道と鋭角で交わる。また、辺りは「松並町」であるが、土堤を強くするための松並木が連なっていたことに由来する。

写真-4のとおり、旧河道の一部は開発されず重箱緑地公園として親しまれている。かつての面目躍如を果たすべく大雨時は遊水地となり、平成30年7月豪雨では水深1m相当を貯留して流域を守った。

写真-5は、旧河道の一部が袋川として直線化され、残りは田畑などで利用されている。

写真-6は付け替え区間の下流端であり、遠望する河口部も昭和後期に直線化され、漂砂による河口の閉塞を防いでいる。



写真-1 千代川改修之碑



写真-2 旧左岸堤防と河道の高低差(秋里)



写真-3 旧右岸堤防の跡(松並町)



写真-4 重箱緑地公園



写真-5 袋川や田畑として残る。



写真-6 付け替え区間の下流

4 おわりに

中世の頃、千代川左岸の安長集落は氾濫に苦しんでおり、平安末期に堤防（図-3、安長土手、長さ700m）が築かれたといわれる。後の安土桃山時代に、鹿野城の初代藩主、亀井茲矩これのりは、千代川の堤防や農業用水路（大井手川）の建設とともに安長土手の維持を行った。現代になり一帯が宅地開発されても安長土手は奇跡的に残っており、平成25年（2013）に「土木学会選奨土木遺産」に認定された。

さて、千代川の河道付け替えから100年になろうとしており、鳥取市の中心市街地は治水事業の恩恵を受けてきた。全国的に水災害が相次ぐ中で、この貴重な史実とともに流域住民には防災意識を持っていただきたいと考える。

【参考文献】

国土交通省鳥取河川国道事務所ホームページ